

会長挨拶

会長挨拶

国大化学会会長 横山幸男（昭和49年電化卒）

昨年度は国大化学会会長二期目の締めくくりの年でありましたが、ご承知の通り新型コロナウイルス感染症の波状攻撃により、社会活動のみならず同窓会の活動も大きく制約を受けています。そして、従来型の会の運営をどのようにしてよいのやら手探り状態で1年が過ぎてしまいました。その訳もあってか、国大化学会執行部・役員会の一部の入れ替えのみで三期目をお任せ頂くこととなりました。どうぞよろしくお願ひ致します。昨年度副会長の太谷裕之教授に代わって児嶋長次郎教授（化学EP代表）を新たにお迎えました。

さて、新型コロナウイルス感染症対策も2年目ともなると慣れてきたせいも、昨年の春あたりとは社会の雰囲気がだいぶ異なるような気がします。今年度は入学式こそ中止となりましたが、新入生をはじめとする各学年のオリエンテーションは対面で行われ、国大化学会からの祝辞も述べることができました。座学授業および実験科目も基本的に対面で行われるようになり、キャンパス内の風景は昨年とは大違い、一見何事もないかのように活気にあふれています。感染対策を粛々と講じれば本来の大学の姿に戻ることができるというあかしでしょうか。

とはいえ、キャンパス内の人流制限は昨年度とほぼ同様であり、学外から不特定多数の方々を招き入れて行われる催し等は禁じられているので、年に一度同窓会員を招集して旧交を深めるための総会は、二年連続中止と致しました。しかしながら、総会の



議決を必要とするいくつかの案件については、昨年度と同様にニュース2021にて発議し、議決権行使書による投票の形を採りました。今回も前回と同様に、議決権行使の数は通常の総会参加者数よりかなり多く（本会誌に掲載のとおり）、総会に来られない会員諸氏に対しては有効な方法かと思われます。ただし、準備のための時間が短く事務局等の負担が大きいことも確かなので、定例化するためにはいくつかの問題を解決する必要があると考えます。

学生支援・研究支援の強化策として、今年度から新たに、従来の冊子体Chemical Abstractの電子版である「SciFinder」購読料（理工系図書館が総額の半分弱を負担するもかなりの高額）の一部を補助することになりました。この種のライセンス料は国外事業者主導で毎年のように値上げが行われるので、受益者の負担増は非常に頭の痛いところと思われ、同窓会としてはできる限りの支援を差し上げたいと考えています。